

女子短大生の日常生活における音響暴露量 国立公衆衛生院 ○長田泰公

目的 生活時間帯別の音暴露レベルを測定し、生活時間データから1日の音響暴露量を推定し、保健衛生の立場からの考察を加える。

方法 女子短大生6名に1こま15分のスケールをもつ時間記録用紙をもたせて1日の行動を記録させた。同時に騒音暴露計NB13A (RION) を携行させて騒音レベルを連続収録し、SV-12、パソコン98ノート (NEC)、プリンタAP600 (EPSON) によって1分毎のレベルを打ち出させた。また1日の生活のうち最も騒音レベルの高かった電車通学中の騒音については、積分型精密騒音計NL-14 (RION) とプリンタCP-10 (RION) によってレベルと周波数分布を測定させた。

結果 生活行動別に音響暴露レベルを整理してみたところ、最も高かったのは電車通学時で、平均約76 dBA (等価騒音レベル、以下同じ) であった。次いで学校内で食堂内で74 dBA、授業中もかなり高い。家でのレベルは概して低いが、50~60 dBAであった。TVの聴取レベルは番組によって異なるが、バラエティで65、ドラマで50 dBA前後であった。睡眠中のレベルは騒音計によって記録したが、30~35 dBAであった。6名での1日の音響暴露レベルはパワー平均で約68 dBAであった。また昨年本学会で報告した同校330名の生活時間調査 (第46回大会研究発表要旨集185頁、Jp10) の結果に今回のデータを適用してみると、1日平均67 dBAとなった。このレベルは一般人での聴力保護のためのガイドライン (EPA) の70 dBAに近い値である。